ISSN 0919-4657

KONC

関西自然保護機構会誌

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

22巻2号（通算40号）

シンポジウム●レッドデータブックはいかにあるべきか



2000年12月
関西自然保護機構

表 紙 の 言 葉

「ツキノワグマ」

写真　小柴　正紀
文　　上野　吉雄

西中国地域のツキノワグマ個体群は，島根県石見地方・広島県北部・山口県東部地方に分布し，本州最西端の孤立個体群として環境庁により絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている。また，広島県も絶滅危惧種に指定している。しかし，1970 年代から人家周辺に頻繁に出没し，農作物や人身への被害が増加し，有害駆除の対象となってきた。そこで，環境庁により 1990 年から「野生鳥獣による農作物被害防止等を目的とした個体群管理手法及び防止技術に関する研究」が，また，広島県により 1993 年から「ツキノワグマ保護管理計画」が実施された。

その中で，捕獲したクマを駆除するのではなく，奥地放獣する方法が試みられた。これは捕獲されたクマの鼻先に唐辛子スプレーを散布することにより，人間は怖いものだという学習をさせて奥山に放獣するもので「広島方式」として知られている。広島県内では 1999 年までに 72 頭が奥地放獣されている。しかし，いったん農作物や家畜の飼料などの味をおぼおえたクマは再びもとの場所にもどってくるものも少なくない。昨年，広島県の牧場で牛の飼料に依存して生活していたメスグマが有害駆除で捕獲されたが，このクマには電波発信機が装着されており，奥地放獣された個体であった。このメスグマは 8 月 27 日に捕獲されたものであるが，飼料を飽食していたために体重が 86 kg もあり，皮下脂肪も大量に蓄積されていた。さらに，11 月 18 日に同じ牧場で捕獲されたオスグマは 148 kg もあった。メスグマの犬歯は折れてなくなっており，臼歯は虫歯だらけであった。これらのクマははたして野生動物といえるであろうか。近年の拡大造林事業により，広葉樹林の面積が大幅に失われ，クマ本来の生活が歪められた結果である。皮肉なことに，農作物や飼料や残飯に依存しているクマが増加し，その結果，西中国山地のクマは増加傾向にあるとして，広島県ではこれまでの保護強化から頭数管理へ方針転換を図っている。

写真は広島県芸北町の湿原に好物のヒメザゼンソウの若葉をたべにやってきたツキノワグマである。ヒメザゼンソウにはシュウサン塩の結晶が含まれており，有毒植物とされている。その葉を味見してみると最初は甘味があるが，しばらくすると口の中が「えぐ味」でいっぱいになる。そんなヒメザゼンソウをツキノワグマはうまそうに食べている。クマを寄せ付けないように，ヒメザゼンソウのある草むらに火をつけて焼いているキャンプ場もあるほどである。

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organazation for Nature Conservation）

KONC は自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978 年に創立されました。

KONC はその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現在，次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・維持会員の会費により，まかなわれています。